

《報告》

下関市蓋井島の海岸で採取されたカワウソの頭骨

久志本鉄平

下関市立しものせき水族館. 〒750-0036 下関市あるかぼーと6番1号

はじめに

ユーラシアカワウソ *Lutra lutra* は海岸から川や湖など多様な水辺環境に生息しユーラシア大陸に広く分布している。日本にすむニホンカワウソ *Lutra nippon* は1989年に *L. lutra* と体サイズが大きいこと、鼻鏡の輪郭がW字状であること、頭胴長に対する尾長の比率が大きいことにより日本固有種に分けられている (Imaizumi & Yoshiyuki, 1989)。また、頭骨形状について、中国産の *L. lutra* に比べ頬骨弓最大幅が広いことが知られている (Endo, 2000)。 *L. nippon* と *L. lutra* はミトコンドリアのチトクロームb遺伝子224残基の塩基配列の比較により7~9ヶ所の置換が確認され、遺伝的にも隔たりがあると考えられる (Suzuki, 1996)。 *L. nippon* は1979年以来たしかかな生息情報がなく、2012年8月に絶滅種に指定された。カワウソは水に依存した生活様式をもつため、開発による水質汚染などの人間活動の影響を受けやすく (Erlinge, 1972)、近隣の韓国でも日本同様に生息地が極めて減少したとされている (Won, 1981)。本報告では今回得られたカワウソの一種 (*Lutra* sp.) の頭骨について報告する。また、今回標本を採取した海岸のある日本海では海岸堆積ゴミが多くその中には海外由来のゴミも多く (山口, 2003)、飲料用のペットボトルに注目すると朝鮮半島や中国からのものが多いことが知られている (岡野, 2011)。

採集場所・材料

下関市の日本海側にある蓋井島の鱸井湾に面する海岸 (図1) にて2010年1月30日カワウソの一種と思われる頭骨 (図2, 3) を採取した。頭骨の前部が破損しているため一部のみ骨計測学的 (Driesch, 1976) に

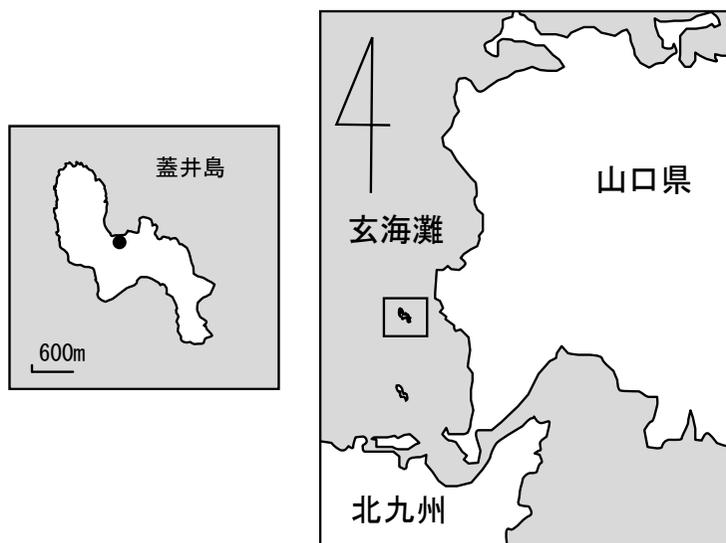


図1. 標本採集地

計測を行い,これまでの研究 (Endo,2000) と比較した. また,標本採集場所に打ち上げられる漂着ごみ (ペットボトル・缶) の調査を 2012 年 2 月 21 日に実施した.

結果と考察

一般的に,カワウソはオスの方が大きい性的二型があり,成熟したオスでは矢状稜が発達する (山崎, 1997). 今回の標本は矢状稜の発達が認められず帯状になるためメスである可能性が高い. 今回得られた頭骨の PL : Profile length (頭骨長) は欠損があるため詳細な比較はできないが 102.75 mm 以上. ZW : Zygomatic



図 2. カワウソの一種の頭骨 (背側)
*スケールは 1 cm



図 3. カワウソの一種の頭骨 (腹側)
*スケールは 1 cm

width (頬骨弓最大幅) は 71.7 mm あり, 中国産 *L. lutra* の PL105.31 mm/ZW60.94mm に比べ幅が広くニホンカワウソに近い特徴が認められる. 次に台湾産 (メス) と比較を行うと, 台湾産が PL97.8 mm/ZW68.45 mm と小さいのに対し, 今回得られた標本は 102.75 mm 以上と大きい特徴がある. また, 採集場所では大陸からの漂着ゴミが多く見られ, 漂着ゴミの内訳は日本由来 26 個 (缶 8 個, ペットボトル 18 個), 大陸由来 49 個あり, そのうちハンゲル文字記載 42 個 (ペットボトル 39 個, ビン 1 個, パック 2 個), 中国漢字記載 7 個 (すべてペットボトル) 確認でき, 日本由来の漂着物を上回る. したがって, 韓国産のユーラシアカワウソが漂着した可能性も考えられる.

以上のことから, 今回得られた標本はニホンカワウソの頭骨である可能性と, 韓国など比較が行えていない大陸からユーラシアカワウソが漂着した可能性が考えられる. 今後, 韓国など比較できなかった地域の頭骨形状の比較や DNA 抽出による遺伝的な調査を行うことで詳細なことが解明されることと考えられる.

最後に, 採集場所となった蓋井島に関する古地図「蓋井嶋地下図 (図 4)」(山口県文書館蔵) に獺 (かわうそ) 上ヶという地名とともにカワウソに似た生き物の記載がみられることから, かつて蓋井島にカワウソが生息していたことが推測される.



図 4. 蓋井島に関する古地図「蓋井嶋地下図, 元文 4 年 (1789)」(山口県文書館蔵) 獺上ヶという地名とともにカワウソに似た生き物 (左下図矢印で示す) の記載が見られる.

謝 辞

本報告を書くにあたり研究の後押しをしてくださった下関市立しものせき水族館の石橋敏章館長, 土井啓行課長, 立川利幸課長に厚くお礼申し上げます. 貴重なご指摘とご教授をいただいた東京農業大学元教授

の吉行瑞子博士，国立科学博物館の川田伸一郎博士に深く感謝する。論文校正については，豊田ホテルの里ミュージアムの川野敬介博士にご協力をいただき，ここに記して感謝の意を表したい。

引用文献

- Driesch, A. (1976) A Guide to the Measurement of animal bones from archaeological sites, *Harvard Univ., Cambridge*.
- Endo, H., Ye, X. and Kogiku, H. (2000) Osteometrical study of the Japanese Otter (*Lutra nippon*) from Ehime and Kochi Prefectures. *Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, 33: 195-201.
- Erlinge, S. (1972) The situation of the otter population in Sweden. *Viltrevy*, 8: 379-397.
- Imaizumi, Y., & M. Yoshiyuki (1989) Taxonomic status of the Japanese Otter (Camivora Mustelidae), with a description of a new species. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 15: 177-188.
- 岡野多門, 安東重樹, 池田圭吾 (2011) 日本海に流入する海外からの飲料用ペットボトルの漂流経路. 廃棄物資源循環学会論文誌, 22: 285-292.
- Suzuki, T., H. Yuasa & Y. Machida (1996) Phylogenetic positic of the Japanese river otter *Lutra nippon* inferred from the nucleotide sequence of 224 bp of the mitochondrial cytochrome b gene. *Zool. Sci.*, 13: 621-626.
- Won, P. O. (1981) Rare and endangered species of animals and plants of republic of Korea. *The Korean Association for Conservation of Nature, Seoul*.
- 山口春幸 (2003) 深刻な海岸漂着ごみ汚染, 月間廃棄物, 3: 2-23.
- 山崎泰 (1997) ニホンカワウソ飼育と記録調査. ニホンカワウソやーい! 高知のカワウソ読本—四国全域に幻の姿を追う—. 高知新聞社, 182-198.